



松実高等学園説明会を終えて

自衛隊埼玉地方協力本部（春日部案内所所長 上野曹長）は6月8日及び9日、松実高等学園において自衛隊説明会を実施した。本校の説明会は初めてである。広報官がパンフレットを持って参り先生へ説明したことで、「是非授業の一環として時間を設けるので生徒に説明してほしい」ということで実現したものである。

さいたま地域事務所からは所長をはじめ、陸海空広報官が参加し、自衛隊の任務や具体的な仕事、職種、福利厚生、仕事のやりがい等について2日間を渡り1年生及び2年生に対して説明した。

自衛隊に関する話に対して、当初は興味無さそうに聞いていた生徒も広報官の経験に基づく災害派遣の話や自衛隊の多種多様な職種に関する説明が進むにつれ、次第に顔色が変わってきて、後半の陸海空ブースに分かれた説明では積極的に質問が飛び交っていた。

説明終了後には生徒達から「自衛隊の色々なことを知れた。」「もっと話を聞きたい。」「国防について更に深く考えたい。」「是非時期が来たら受験したい。」との感想も聞かれ、大盛況であった。

また、日を改めて、心温まる感想がたくさん詰まった生徒達各個人からの寄せ書きも届き、参加した広報官は一人一人の言葉を見つめ、「とても嬉しく、広報官冥利に尽きる。」と感動を伝えていた。

埼玉地方協力本部は今後も各種学校に対して、効果的な募集広報を実施していく。



備えて防災！学んで災害！

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下1等空佐）は、令和3年8月2日（月）幸手市社会福祉協議会からの依頼を受け、ウエルス幸手において、「日頃から災害に備え、出来る事を自衛隊員から学ぶ実技体験講座」を実施した。

本講座には、小学3年生から年配の方まで、幅広い年齢層20名が受講した。

講座の内容は、災害時に使用できるロープワークとして、陸上自衛官なら誰でも身につけている身体もやい結びを主に体験していただき、参加者全員に習得していただくことができました。また応用として少し難易度が上がる命綱結び、本結びも実体験していただいた。

そして、防災グッズの必要性を伝えるとともに、防災バッグの入れ組品（防災ラジオ、ヘッドライトなど）の具体的な使用要領や最近の台風・大雨による被害の増加を踏まえ、冠水等により車に閉じ込められた場合のレスキューハンマーの使用要領及び脱出方法の説明などを行った。

参加者からは「防災の意識が高まった」「また機会があったら参加したい」「命を守るすべを知る事ができた」「防災グッズの必要性、何を準備すべきかがわかった」などの感想も聞かれ、参加者の方々に役立つ情報を発信することができた。

埼玉地本は、今後も地域の方々に対し、機会をとらえ、防災の重要性を認識していただくとともに、自衛隊に対する理解促進と親近感の向上を目指していくと語った。

